

阪急梅田停留場の擴張と 阪急ビル第4期工事

鐵道省大阪驛高架線開通に伴ひ、阪神急行電鐵梅田停留場は、高架プラットフォームから地平停留場に改築する必要が起り、去昭和9年6月1日、省線との切換工事と同時に其第1期乗降場の使用を開始し、續いて舊停留場敷地を取拂ひ、第二期擴張工事の處、去12月14日朝完成し、乗降を取扱ふことゝなつた。

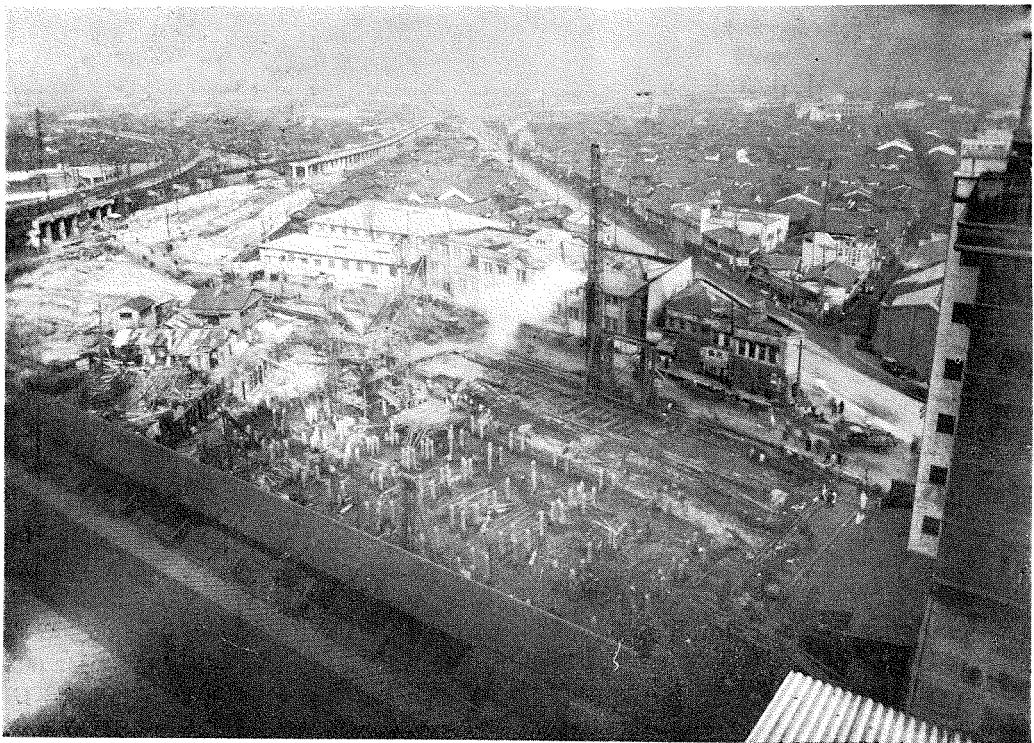
新しい停留場は阪急百貨店ビル（延坪約17,000坪）に圍繞され、停留場並にビルディング敷地は2,737坪、驛構内として鐵道省より借用せる敷地は鐵道省高架線以南に於て2,19

3坪、合計4,930坪、ビルの1階は停留場ホールとして其大部分が使用される。其建坪は1,436坪である。

乗降場は現在846坪、今後擴張増設の分は913坪で合計1,759坪、全部鐵骨上家（スパン84尺のアーチ型2徑間）を架設する。

ホームの延長は250尺に及び電車5輛連結車の發着を取扱ふことが出来る。神戸線客用4線、寶塚線客用4線、側線3線計11線の配線あり、神戸市内高架線の完成と共に運輸營業上一大活躍が期待されてゐる。

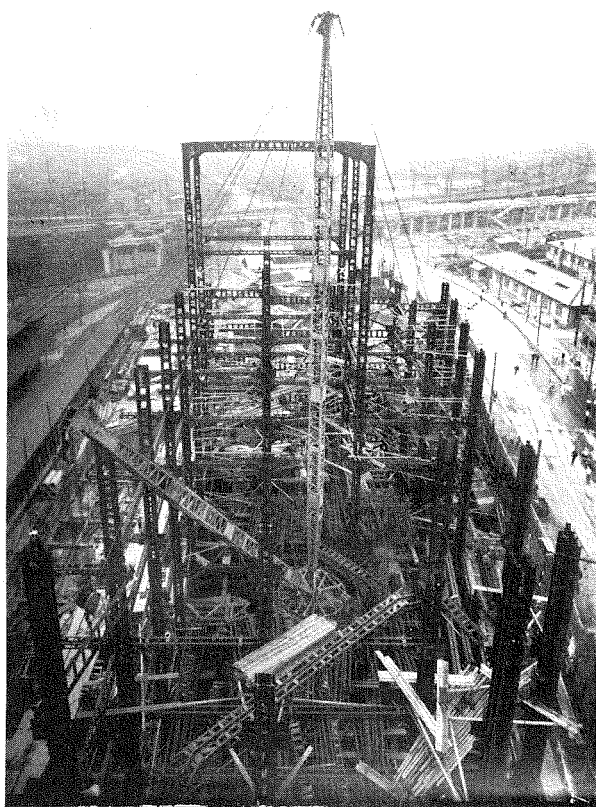
(1) 省線との切換工事（昭和9年6月）竣工後、舊高架ホーム撤去根切工事中。



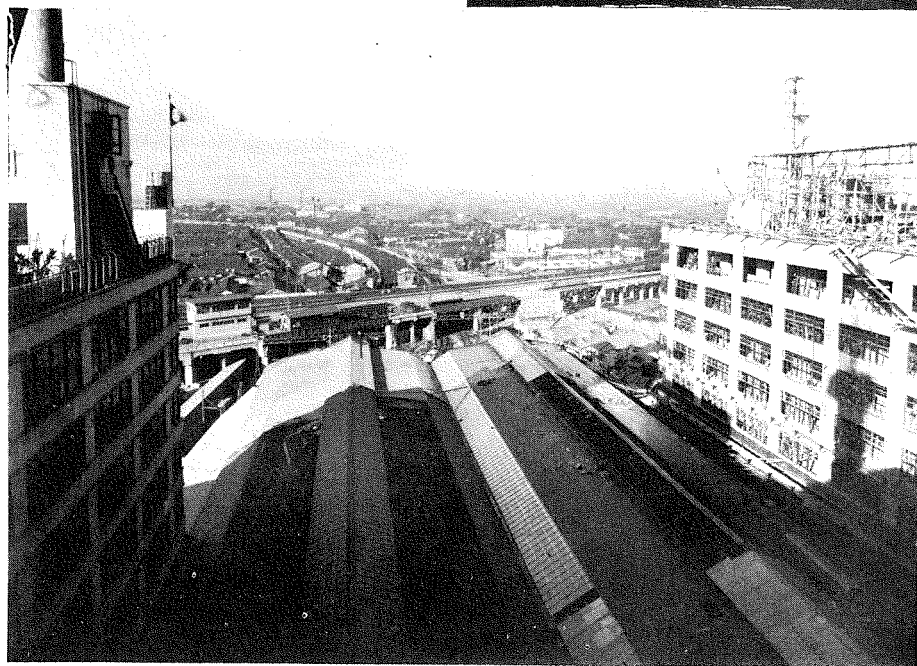
阪急ビル第4期工事

阪急百貨店ビルは目下第4期工事中であるが、近く完成するこの擴張工事を加へると其延坪に於て17,558坪（内梅田停留場ホーム1,759坪）の尨大なる大百貨店を現出する事になる。

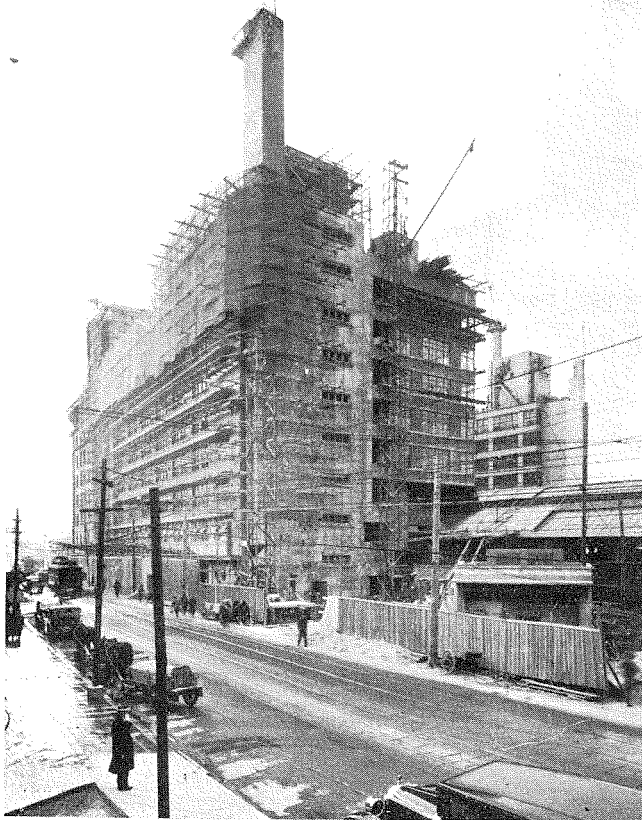
建物は地下2階、地上8階、鐵骨鐵筋コンクリート造で、外觀は凡て特殊タイル張、一部萬成石水磨きを以て外裝せられ、其設備に



(2) 阪急ビル第4期工事、鐵骨組立作業（舊館上より俯瞰）



(3) 阪急ビル屋上より梅田停留場上家屋根を望む。(昭和10年11月27日)



(4) 阪急ビル第
4期工事東側外観
(昭和11年1月10
日)

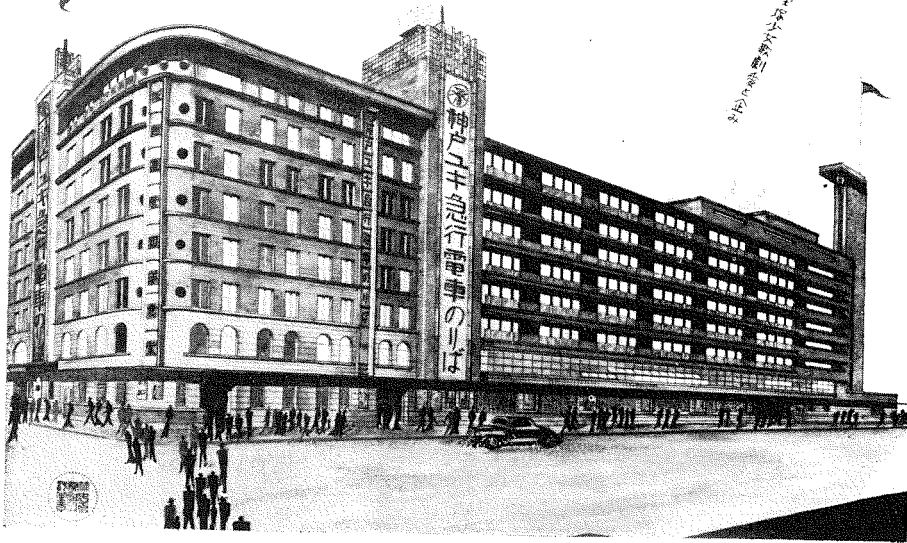
於ては冷煖房、照明、衛生、昇降機工事等何れも近代科學の粹を蒐め遺憾なく施設される筈である。

第4期工事による建物の用途は地下2階は機械室、地下1階は大半を厨房に使用し、第1階乃至第7階は百貨店賣場、第8階は食堂に充てられる。工事は竹中工務店の施工により、本年3月末には竣功の豫定である。

(5) 完成せる梅田停留場ホーム
(神戸線客用4線、寶塚線客用4線、側線3線、上家面積1,760坪)



(6) 第4期工事完成後の阪急ビル（昭和11年3月竣工の豫定）



(7) 阪急ビル第4期工事及梅田停留場工事平面圖。

